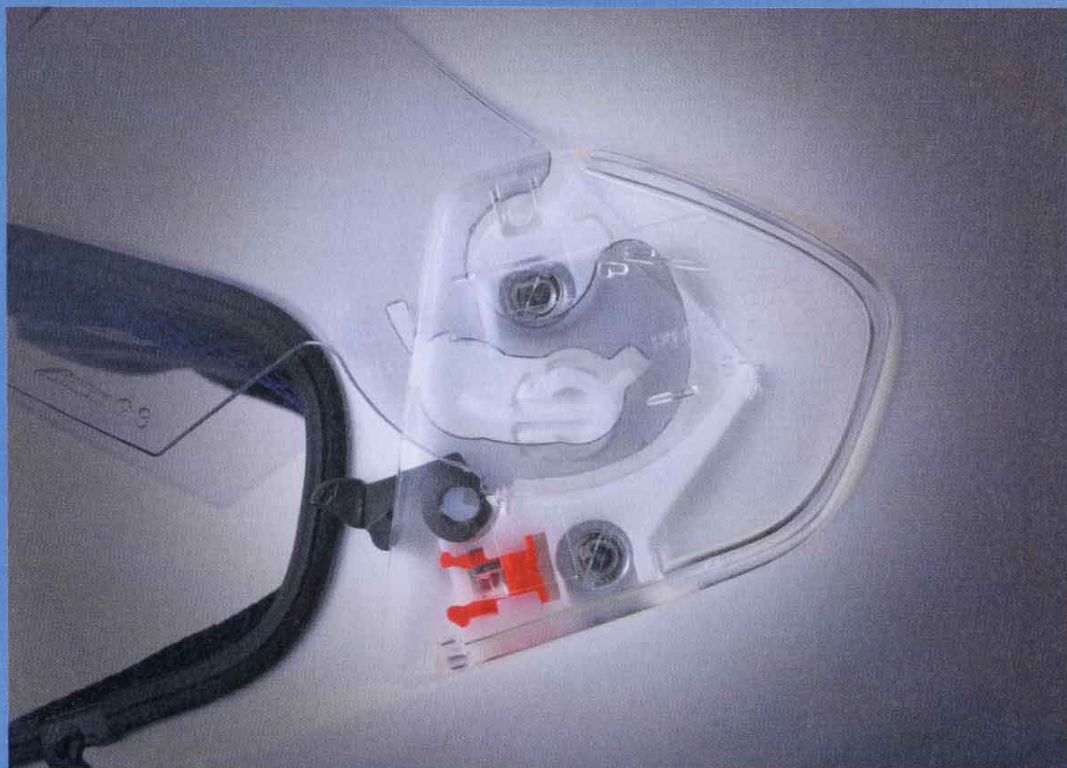




スーパーアドシス

アライヘルメット社長の
新井理夫はバイクが好きで
す。60歳を遙かに超えた今
でも、休みになるとその日
の気分に乗るバイクを選び、
走り回っています。

そんな新井が好んで被る
のはフルフェイスですが、
シールドの汚れは嫌がるよ
うで、走るときは濡れタオ
ルを手元に置いて、汚れる
と直ぐに拭くのが昔からの
習慣です。内側が汚れると
シールドを外し、内側もキ
レイにします。スーパーア
ドシスと言うのも、実は、
「ヘルメットを脱ぐのは面
倒だから、シールドは被っ
たままでも取り外し・取り
付けが出来るようにした
い。」と言う、新井の我が
ままから生まれたシステム
です。シールドはネジ止め
が常識であった時代、その
着脱には苦労したようです。

その程度の転倒でシールド
が飛ぶようにだと、レース用
具としては失格です。被っ
たままでも容易に着脱でき
るが、多少の衝撃では飛ば
ない。スーパーアドシスで
は、この相反する二つの要
件を満たすことが課題でした。
アライのスーパーアドシ
スは、世界に先駆けた17年
前のシステム誕生以来、進
化を積み上げて来た成果で
す。今日では、世界中のメ
ーカーが出す様々なシールド
システムを見るまでにな
りました。だが、被ったま
まの着脱も容易で、しかも、
多少の衝撃では飛ばないと
言う厳しい要求に照らすと、
長い歴史に裏打ちされたス
ーパーアドシスのレベルに
は、まだまだたのようです。

そんなスーパーアドシス
ですが、新井の我がままは
未だ収まらず、更なる難題
を出し続けています。そん
なことで、アライの開発ス
タッフは無理難問を抱えて
いるわけですが、結構、そ
んな挑戦も楽しんでいるよ
うです。だから、ここ一二
年の内には、バイクをより
楽しくする何かのカタチで、
挑戦の成果をお見せするこ
ともできるでしょう。ご期
待ください。